

環境学委員会・地球惑星科学委員会合同
FE・WCRP合同分科会
第24期・第3回
議事要旨

日時 平成30年12月27日(木) 10:00~12:20

会場 東京大学地震研究所1号館2階セミナー室(東京都文京区弥生1-1-1)

出席者:中村尚(委員長), 東久美子, 植松光夫, 江守正多, 三枝信子(副委員長), 張勁(幹事 議事録), 中島映至, 氷見山幸夫, *平野高司, 福士謙介, 大手信人, 谷本浩志, *見延庄士郎, 榎本浩之, 齋藤宏明, 齋藤文紀, 西岡純, *速水祐一 計18名

欠席者:春山成子, 沖大幹, 春日文子, †木本昌秀, 蟹江憲史, 佐藤薫, 高薮縁, 谷口真人, †檜山哲哉, 中静透, 安成哲三, 山形俊男, 山形与志樹, 大政謙次, 小森大輔, 原田尚美 計16名(うちオブザーバー2名)

*スカイプ参加
†オブザーバー

配付資料

- 資料 1-1 FE・WCRP 合同分科会委員・オブザーバー名簿
- 資料 1-2 FE・WCRP 合同分科会第24期第1回議事要旨(案)
- 資料 1-3 FE・WCRP 合同分科会第24期第2回議事要旨(案)
- 資料 2-1 CliC 小委員会活動報告
- 資料 2-2 CLIVAR 小委員会活動報告
- 資料 2-3 GEWEX 小委員会活動報告
- 資料 2-4 SPARC 小委員会活動報告
- 資料 2-5 IGAC 小委員会活動報告
- 資料 2-6 iLEAPS 小委員会活動報告
- 資料 2-7 IMBeR 小委員会活動報告
- 資料 2-8 SOLAS 小委員会活動報告
- 資料 2-9 HD 分科会活動報告
- 資料 3-1 WCRP Strategic Plan 2019-2028 (Draft)短縮版
- 資料 3-2 WCRP JSC 39th session General Summary
- 資料 3-3 Future Earth の国際動向、国内やアジアでの取組み
- 資料 3-4 Future Earth の推進と連携に関する委員会からの報告とお願い
- 資料 3-5 10 New Insights in Climate Science (Future Earth)短縮版

議事内容

・議事に先立ち、中村委員長より開会の挨拶に続き、本日の議事予定と配布資料の確認がなされた。

(1) 第24期第1回議事要旨(案)及び第2回議事要旨(案)の確認

中村委員長より、第24期FE・WCRP合同分科会第1回議事要旨案(資料1-2)及び第2回議事要旨案(資料1-3、メール開催)について説明がなされ、承認された。

(2) 各小委員会からの報告

2-1 CliC 小委員会の活動について榎本委員より報告があった（資料 2-1）。

- ・ CliC 第 1 回小委員会が開催され、委員長・幹事と新規委員が選出された。
- ・ CliC SSG 14th Session (2018)、CliC が後援した国内開催の国際学会、IPCC AR6 や今後の CliC 活動に関する意見等について報告された。

2-2 CLIVAR 小委員会について見延委員より報告があった（資料 2-2）

- ・ CLIVAR 第 1 回小委員会が開催され、委員長・副委員長・幹事が選出された。
- ・ 現在の SSG に日本人が不在の状況を打破すること、次期 WCRP との関係強化、基礎研究重視のスタンスを維持する。現在、CLIVAR JAPAN の Webpage を作成中。

2-3 GEWEX 小委員会について高薮委員（代理 中村委員長）より報告があった（資料 2-3）

- ・ 第 1 回小委員会が開催され、委員長・副委員長・幹事が選出された。
- ・ JpGU2018 での講演、10 月 GEWEX Hydroclimatology Panel (GHP) 会議にて GEWEX/MAHASRI の後継プロジェクト Post MAHASRI (仮称) が承認された。

2-4 SPARC 小委員会について佐藤委員（代理 中村委員長）より報告があった（資料 2-4）

- ・ 第 1 回小委員会が開催され、委員長・副委員長・幹事が選出された。
- ・ JpGU で SPARC セッションを開催した
- ・ 第 6 回 SPARC General Assembly（2018 年 10 月 1～5 日）が京都で開催され、31 カ国から計 382 名が参加（日本からは 72 名）した。直後に、第 26 回 SPARC SSG ミーティングが開催された。

2-5 IGAC 小委員会について谷本委員より報告があった（資料 2-5）

- ・ 日本大気化学会と連動し活動している。IGAC は基礎研究を重視すると同時に、持続可能性とのつながりを求める FE と協働で推進している。iCACGP-IGAC2018 国際会議が高松で開催（2018 年 9 月 25 日～29 日）され、46 カ国から 733 名（若手約 40%）が参加した。第 1 回若手ショートコースを開催。今後、IGAC と iLEAPS や SOLAS との連携も視野に入れて活動する。

2-6 iLEAPS 小委員会について檜山委員（代理 三枝副委員長）より報告があった（資料 2-6）

- ・ 年に 2 回、春と秋に小委員会が開催され、第 1 回小委員会で委員長と幹事が選出された。
- ・ 次回の iLEAPS Science Conference は、2021 年にニュージーランドで開催予定。24 期では、日本を含むアジアやユーラシアでの研究戦略として、物質循環を各国との強い連携によって進める。

国内の他機関との連携強化や若手育成等について、種々の意見が交わされた。

2-7 IMBeR 小委員会の活動について齊藤委員より報告があった（資料 2-7）

- ・ 第 1 回 IMBeR 小委員会が開催され、委員長が選出された。
- ・ FE の science plan に沿い、SSC のメンバーは自然科学と社会科学の半分ずつより構成される。JpGU での講演や第 8 回日中韓 IMBeR シンポジウムが紹介された。IMBeR OSC が 2019 年 6 月にフランスで開催される。2018 年の白鳳丸インド洋調査には IMBeR 研究者が多く乗船した。

Regional office を日本へ召致できないか、国際会議の開催に際し隣接する分野との連携強

化や、次期学術会議会員・連携会委員の選考に際してFE関係委員の推薦も留意が必要。IMBeRとCliCの関係等について、種々な意見が交わされた。

2-8 SOLAS 小委員会の活動について西岡委員より報告があった（資料 2-8）

- ・ SOLAS 小委員会が開催され、委員長・副委員長と幹事が選出された。
- ・ SOLAS サマースクールに日本から2名の若手を派遣し、SOLAS-OSC 2019（2019年4月、札幌）開催に向けて現在準備を進めている。

FE Coasts 小委員会の活動について速水委員より口頭報告があった（資料無し）

- ・ FE Coasts 第1回小委員会は5月に開催され、委員長・副委員長と幹事が選出された。
- ・ 小委員会の英語表記は「Future Earth Coasts Japan」、略称はFEC Japanとした。JpGUでの講演、FEC Japan立ち上げの国際事務局への報告、今後FE Coasts Australiaとの連携の検討等が紹介された。

PAGES 小委員会の活動について齋藤委員より口頭報告があった（資料無し）

- ・ 5月に会合開催した。2019年5月に正式の会合を設ける予定。
- ・ 2017年にOpen Science Meetings (OSM) が開催され、次は2021年の予定。日本のPAGESは主に海面変動と過去2000年間の古環境変動を推進。

関連分科会活動の報告

2-9 HD 分科会活動について氷見山委員より報告があった（資料 2-9）

- ・ 12月16日に開催されたシンポジウム「地球システムと私たちの生活 人新世時代の想像力」が紹介された。

SCOR 分科会 SIMSEA (Sustainability Initiative in The Marginal Seas of South and East Asia) 小委員会活動の報告について植松委員より報告があった（資料無し）

- ・ 国際的には主にアジアで活動しており、Belmont Forum のCRAへの申請については、三ヶ国からの申請条件を満たすため、日本・フィリピンの他、インド、ロシアに参画を呼びかける検討をしている。また、その他の国の参加を呼びかけ中である。2nd SIMSEA Regional Symposiumが11月にフィリピンで開催され、10ヶ国から205名が参加した。その後、国際SSC会合が開催された。

(3) 国内外の動向に関する情報交換

3-1、3-2 WCRP 次の十年（2019-2028）戦略プランについて（資料 3-1、3-2）

中村委員長より資料 3-1 及び資料 3-2（WCRP-JSC の議事録抜粋）に基づき説明がなされた。戦略プランは現在作成の最終段階で、4つの柱：気候システムの基本的理解、気候システムの近未来予測、気候システムの長期将来予測、社会と気候研究の融合を中心に議論が進められ、より社会寄りになっている。

WCRP と FE の Grand Challenges について議論され、WCRP 内の連携強化や、共通する委員を中心に、連携と情報交換を活発化にすることで意見が一致した。

3-3 Future Earth の国際動向、国内やアジアでの取組み（資料 3-3）

上記（資料 3-3）について春日委員（代理 中村委員長）より報告があった。

国際動向について、組織横断的活動の強化や新しい統合的活動の成果、GRPs、KANs への

日常的な事務局サポート等が紹介された。

国内の取り組みについて、拡大版 SDGs アクションプラン 2018、SDGs アクションプラン 2019、ステークホルダー関連の研究集会開催、日本やアジアからの発信との報告があった。

3-4 Future Earth の推進と連携に関する委員会からの報告とお願い（資料 3-4）

上記（資料 3-4）について安成委員（代理 中村委員長）より報告があった。

- ・関連委員会は 8 月に開催され、国内外の活動報告があった。
- ・JpGU での FE セッション開催予定、FE マスタープラン 2020 の公募（締め切り 2019 年 3 月末）等が紹介された。

3-5 10 New Insights in Climate Science (Future Earth) 短縮版（資料 3-5）

上記（資料 3-5）について中村委員長より紹介があった。

補足・関連情報（江守委員、氷見山委員、中村委員長、大手委員）：

- ・Future Earth Global Summit の日本版は、現在、内々で議論し始めた。
- ・災害と教育等 FE で十分カバーできないテーマは WCRP や HD 等が補い、積極的に国際発信を行う。
- ・学術会議の中でも防災減災学術連携委員会が出来ている。複数の組織で連携しながら推進が必要。
- ・今期も本分科会の活動に関連するシンポジウムの主催が提案され、承認された。
- ・FE 側から、社会科学系の演者も招聘する必要；本合同分科会傘下の小委員会や FE の推進・連携に関する委員会からもカバー出来る。

(4) その他

報告とお知らせ（中村委員長、氷見山委員、中島委員）

- ・WCRP 活動調査は 2018 年 11 月に日本学術会議に提出済みで、3 月頃に調査結果が開示される。もし調査票の内容が不十分との指摘が届いた場合には、調査票改訂への情報提供が必要。承認されれば、25 期（2020 からの 3 年間）も約束される。
- ・小委員会開催は必須だが、旅費等の支給は無いため、学会期間やリモート参加を活用する。
- ・JpGU について、HD 関連セッションが提案された。
- ・The 27th IUGG General Assembly（IUGG 100 周年）が 7 月にモンリオールで開催予定（要旨締め切り 2 月 18 日）。
- ・役員改選時期で、候補者は大体固まっているが、投票行動は重要。
- ・IAMAS-IAPSO-IACS Joint Assembly 2021（MOCA2021）は、2021 年 7 月に釜山で開催される。
- ・議事録の承認はメール等で委員間で確認のうえ、確定は委員長一任で了承された。